

あいさつがなかなかできなかつた生徒たち。試行錯誤を繰り返し、あいさつ度は上昇中。

《学校紹介》

昭和36年に開校。
米沢市内では最も多い生徒数。東日本大震災で校舎が被害を受け新築。

【あいさつ運動概要】

- ◎主体: 生徒会、委員会活動に加えて部活動単位で実施。
- ◎形態: 校門前から昇降口前で実施
- ◎頻度: 毎日

【特長】

2年前より同校では、生徒会が主導であいさつ運動を始めましたが、返ってくるあいさつの声が小さかったり、返事をしてくれなかったりすることさえありました。そこで、様々な試行錯誤を試みました。その中の取り組みとして、部活動単位であいさつ運動に参加してもらったところ、最もあいさつの声が大きく、他の生徒にも好影響を与えました。また、部活動内のチームワークも向上するという効果もみられました。

その他の取り組みの中で、あいさつを元気に返した生徒や、自主的にあいさつをした生徒には、行動を表彰する意味で教師からカードを渡す「あいさつカード」の実践を行っています。このカードは教師の自作で、生徒が喜ぶようにさまざまなデザインが用意されています。また、あいさつの実行数をカウントし、成果を発表するなど意識改革に努め、現在では多くの生徒が自らあいさつを行うようになりました。



●部活単位でも行われる「あいさつ運動」

【メリット・効果】

- ◎遅刻者が減り、校内の雰囲気がよくなる
- ◎生徒の表情を教師が読み取れるようになる
- ◎チームワークが向上する

トピックス

問題を抱えている子を発見しやすくなる

生徒数が多い中でうつむいたままの生徒ばかりでは、教師はその表情を読み取ることができません。いじめを含む、問題を抱えた生徒に気づくためにも「あいさつ運動」は必要でした。現状はまだ発展途上の状況ですが、遅刻者は激減し、校内の雰囲気はよくなってきたと評価しています。同校では今後もクラス単位での「あいさつ運動」対抗戦や「あいさつキャラクター」の作成など、新しい試みも考えています。



担当教員の渡部先生(左)と樋口先生(右)